

平成28年度第12回講演会 記録

日 時	平成28年10月8日(土)
会 場	此花会館 梅香殿
講 師	(株)ジェネレーション・イレブン・ピクチャーズ代表取締役 鎌田 雄介先生
演 題	映画「うみ やま あひだ」 日本の自然と精神文化
備 考	参加者数 142名(会員129名、非会員13名) 記録 藤原雄平

今回の講師を務めていただいたの鎌田先生は、大学卒業と同時に渡米、日本人大リーガーを中心に大リーグ情報の取材と生中継の仕事に従事された後、映画製作に転向。現在は東京へ戻られて、映画やドキュメンタリーのプロデューサーをしておられます。滞米中に体験された、日米違う文化のぶつかり合いの中で、日本・日本人の個性的な面、他とは違った日本の見方について考えるようになり、それが長編ドキュメンタリー映画「うみ やま あひだ」の製作に繋がっていったとのこと。



《講演》

1. 先ず、田中先生から、鎌田講師との出会いの経緯(2013年5月頃、気仙沼で畠山氏のドキュメンタリー映画でインタビューを受ける)についてご披露があり、この映画が自然学講座のメインテーマにたいへん近い内容であること、そして次の時代へつなぐ映画であるとのことがありました。
2. 鎌田先生から、プロデューサーという仕事について概略解説があった後、映画のテーマが“何故、日本人は千三百年間も伊勢神宮で式年遷宮を続けてきたのか?”であること、そしてその解答を12人の賢者に疑問をぶつける形式で求めたものであること、映画のタイトルは古事記の中にある“うみ やま あひだの国”から名付けたこと等の紹介があつて、上映開始。
3. 映画「うみ やま あひだ」(上映時間80分)
伊勢神宮の神事の様子や神宮の森などの風景に織り交ぜて、12名の各界の賢者にインタビューする構成をとっていて、幽玄の時間を超えた映像と賢者たちの言葉から、観る人に“何か”を残す映画となっています。とりわけ、12名の賢者のお一人に田中先生が登場されたことが我々にとっては一番のインパクトでした。因みに、他の賢者は、伊勢神宮神職の川井真如、宮大工棟梁の小川三夫、神宮の森管理者の倉田克彦、法隆寺住職の大野玄妙、横浜国大名誉教授の宮脇昭、建築家の隈研吾、映画監督の北野武、木材会社経営の池田聡寿、牡蠣養殖業の畠山重篤、料理人の成澤由浩の各氏。上映後、賢者との関係や出演依頼の交渉など製作にあたっての裏話をご披露されました。
4. 映画は海外の8つの映画祭にも出展され、スイスのセフィールドでの映画祭で入賞、2015年マドリッドの国際映画祭では外国語ドキュメンタリー部門最優秀賞を受賞などの高い評価を獲得。今後も個性的な日本的なものを表現し、それを海外へ伝えて行くことをライフワークにしたいとの抱負を熱く語られた。
5. 田中先生まとめ
DVD「うみ やま あひだ」の販売協力の要請と、“時の大切さ、物ではない、それを訴えた”映画であること、そして今度は海に軸足を置いた続編の製作を鎌田先生にお願いして講演を締められた。

以上